

伏見城跡を歩く

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

伏見城は、城造り名人の豊臣秀吉が最後に造営した城です。東山三十六峰の最南端、巨椋池を望む伏見山指月の森に隠居所の目的でつくられました。この城は慶長の大地震によって壊れ、木幡山を中心として大規模に再建されました。

江戸時代には徳川家康の一国一城令によって、伏見城は元和九年(1623)に廃城となり、徹底的に破壊されて跡形も無くなりました。このことによって、幻の城といわれます。

その後、伏見城跡には桃や梅の

木が植えられ、桃の花が有名となり、桃山と呼ばれるようになりました。

今回は破壊をまぬがれ、発掘調査で見つかった遺構・遺物を訪ねて、伏見城跡を歩いてみましょう。

(前田 義明)



1 東御寺壇(南から)
境内には北側総構の土塁が、今でも墓地として残されています。総構の土塁跡が観察できる唯一の場所です。



2 伊達街道と上板橋通りの交差点(南西から)
道路の側溝は石組みの溝です。武家屋敷側には石垣を積んでいます。



3 上板橋通り(東から)
上板橋通りの拡幅工事で、路面と側溝・石垣が約170mにわたって検出されました。



4 伏見山崎天守閣(西から)
昭和39年に造られた天守閣。このあたりは城郭の北西部に位置する御花畑山荘跡に推定されている所です。



5 北御台(西から)
北御台公園が整備される時に発掘調査が実施されて、石垣が発見されました。現在、石垣は公園の植え込みとして表されています。



5で検出した石垣は、北御台のり面に積まれたものです。高石垣ではなく、のり面の裾を押さえる目的の石垣と思われます。



5 明治天皇陵（南から）
御陵が築かれている山上に、震長の大地震の後に造られた天守階跡が推定されています。ここからは宇治方面が見渡せます。



8 桃山東小学校内の石垣（西から）
7で発見された石垣の一部が、桃山東小学校に移築され、京都市の史跡に指定されています。



9 武家屋敷の門跡（北東から）
御香宮神社の西側にあたる桃山町金森出雲で、検出されました。門跡は焼け瓦を含む焼土層に覆われ、火災を物語っています。



10 御香宮神社神門（南から）
伏見城の大手門を移築したとの伝承があります。御香宮は伏見城が造られるときに、総構の外側に移されましたが、江戸時代に移転してきました。



7 武家屋敷の石垣（北西から）
宅地造成中に石垣が発見されました。武家屋敷の石垣と推定されています。

東コース
京阪宇治線・六地藏駅下車



11 武家屋敷跡（東から）
御香宮の東側で礎石が並び、武家屋敷跡が見つかりました。12の町屋跡よりは建物が大規模です。



12 R 桃山駅隣接地の発掘調査（西から）
立売通に面した町屋跡は小さな礎石が並び、土間のたたきやカマドも見つかりましたが、火災にあっていません。慶長10年（1605）の大火の記事と一致します。

南コース
京阪本線・伏見桃山駅下車
近鉄京都線・桃山御陵前駅下車
JR京阪線・桃山駅下車



14 深川（南から）
西側の濠として築られた川。伏見港に直結し、淀川・宇治川からの物資の荷揚げが盛んに行われました。深川に沿って伏見の酒蔵がみられます。



13 金箔瓦が出土した桃陵中学校の調査
山口駿河守屋敷に推定される場所で、金箔瓦が多数出土しました。文様の部分に漆を接着剤として金箔を貼っています。

